

大学院 人文学研究科

中学校専修（宗教、社会、外国語（英語））

高等学校専修（宗教、公民、地理歴史、外国語（英語））

小学校専修

【教員養成の理念】

本学学則では、大学の目的を「教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、仏教の精神に則り、人格を育成するとともに、仏教並びに人文に関する学術を教授研究し、広く世界文化に貢献する」（大谷大学学則第1条）と定めている。同様に、本学大学院学則では、「仏教の精神に則り、仏教並びに人文・社会に寄与する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与する」（大谷大学大学院学則第1条）ことを大学院の目的としている。

本学はこれまで、一宗一派に偏らない、人間解放をめざす仏教精神に基づく、宗教的情操を身につけた中学校・高等学校教員を多数輩出し、全国的な規模で地域社会から厚い信頼を得てきた。仏教精神に基づく教育・学術研究という理念は、本学の教員養成の理念でもあり、ここには、明治期に真宗大学（本学の前身）を開設して以来、独自の建学の精神が継承されている。すなわち初代学長清沢満之は、開校の辞で、本学の教育理念を、「自己の信念の確立の上にその信仰を他に伝える、即ち自信教人信の誠を尽くすべき人物」の養成であると宣言し、第三代学長佐々木月樵は、清沢の遺志を受け、本学の目標を次の三点とした。

- (1) 「仏教の学界への解放」：一宗一派に偏らない学としての仏教学を提唱
- (2) 「仏教を教育からして国民に普及する」：人間解放をめざす仏教精神を、教育を通じて広く知らしめる
- (3) 「宗教的人格の陶冶」：本務遂行、相互敬愛、人格純真

特に、本務遂行、相互敬愛、人格純真の三モットーは、①高度な専門的知識と研究能力を身に付けるために学問・研究に精進する（本務遂行）、②学際的・国際的な視野に立って自他を理解し互いに尊敬し合える関係を創造する（相互敬愛）、③仏教的知見を通して深く自己を省察し広く他者を理解する（人格純真）として修士課程のアドミッション・ポリシーに掲げられている。

【理念を実現するための教員養成の構想】

このような、建学の精神を現代に生かし、その理念を実現する教員養成を行うために、本学では、高い教職意識と責任感を持ち（本務遂行）、人格的な相互信頼を築く素養と実践的なコミュニケーション能力・対人関係能力を備え（相互敬愛）、いのちの共生を尊ぶ慈育の精神に富む人間味溢れた（人格純真）教員を育成し、現代教育の諸々の要請に積極的に応えていきたいと考えている。長い伝統に培われた精神性豊かな本学の学風の下

で、人間教育に携わる優れた人材を育成することこそ、本学が教職課程を有する意義がある。

本学は、昭和24年に新制大学として発足して以来、長らく中学校・高等学校の教員養成（国語・英語・社会・宗教）に携わり、多数の教員を世に送り出してきた。また、平成30年には幼稚園・小学校の教員養成を主たる目的とする教育学部を開設し、本学の特徴である宗教的情操をそなえた教員養成に取り組んでいる。

大学院修士課程では、その教育研究目的である「学部における一般的並びに専門的教養の基礎の上に更に広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力の涵養」（大谷大学大学院学則第3条）を、教員養成においても実現したい。

【養成したい教員像】

本学はこれまでも、慈育の精神に富み、宗教的情操を身につけた小学校・中学校・高等学校教員を輩出し、地域社会の振興と発展に寄与し、その使命を果たしてきた。また、従来、学部から大学院博士課程に至る教育・学術研究を行い、現職教員や留学生の受け入れ（大学院研修員制度）にも積極的に応えてきた。この点で本学は、教員の養成段階にとどまらず、学校教育の実践面での教育・学術研究においても社会的に寄与する取り組みを行っている。

これまで本学が小学校・中学校・高等学校の教員養成において培ってきた経験および学術的な蓄積を生かし、宗教的情操を身につけた教員を数多く養成することにより、現在の社会的な要請に対して積極的に応えていきたいと考えている。すなわち、学部はもとより大学院においても「子ども達にいのちの尊さや道徳的心情を涵養できる高度専門職業人」を育成することにより、本学に期待された社会的な使命を果たしていきたいと考えている。

したがって、本学が大学院において養成したい教員像とは、建学の理念に基づく「三モットー」を体現して、①高い教職意識と責任感を持ち（本務遂行）、②社会的常識やコミュニケーション能力・対人関係能力を備え（相互敬愛）、③子どもたちの声にじっくりと耳を傾けることのできる慈育の精神に富んだ（人格純真）、高度専門職業人としての教員である。